

令和7年（2025年）の富士山の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報及び噴火警戒レベルの状況、2025年の発表履歴

2025年中変更なし	噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）
------------	----------------------------

○ 2025年の活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

萩原監視カメラ（富士山山頂の東南東約18km）による観測では、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2～図4）

地震活動は低調に経過しました。

深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動や浅部の低周波地震は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図5、図6）

地殻変動観測では、火山活動によるとみられる特段の変化は認められませんでした。



図1 富士山 山頂部の状況（2025年12月31日 萩原監視カメラによる）

この火山活動解説資料は気象庁ホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/know/kazan/kazanyougo/mokujii.html>

この資料は気象庁のほか、中部地方整備局、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、山梨県及び神奈川県温泉地学研究所、公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています。

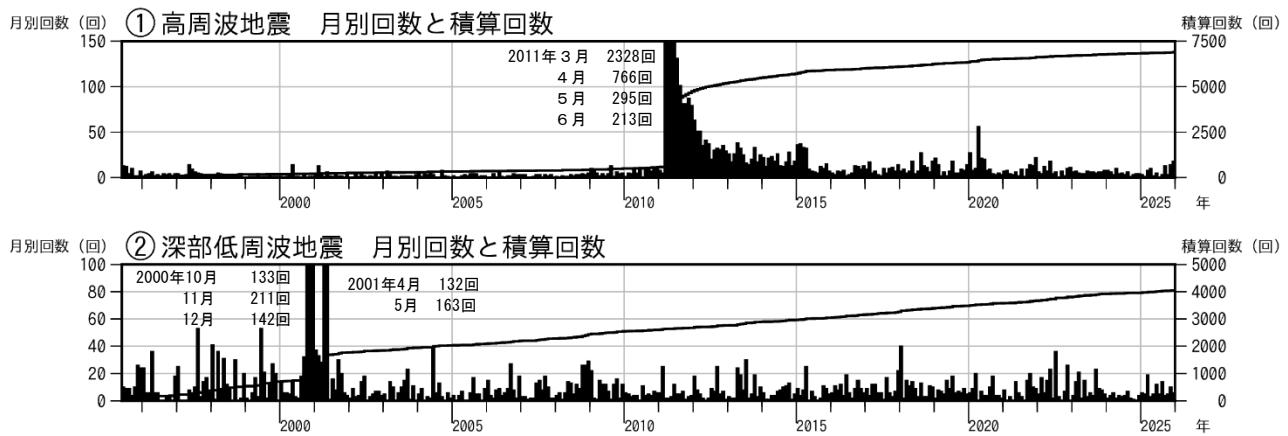


図2 富士山 月別地震回数（1995年6月1日～2025年12月31日）

① 高周波地震の計数基準

2011年3月22日まで 富士山頂上下動振幅 $0.5 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間3.0秒以内

2011年3月23日～（防）富士第5上下動振幅 $0.3 \mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間3.0秒以内

ただし、欠測等の場合は代替点（富士山頂、太郎坊）により計数しています。

（防）は、国立研究開発法人防災科学技術研究所を示します。

② 深部低周波地震の計数基準

広域地震観測網により震源決定された地震のうち、①と同じ基準を満たす地震。

- 2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したM6.4の地震以降、地震活動が活発な状況となっていましたが、2016年以降、発生前の状況には戻っていないものの、低調に経過しました。
- 深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状態で経過しました。

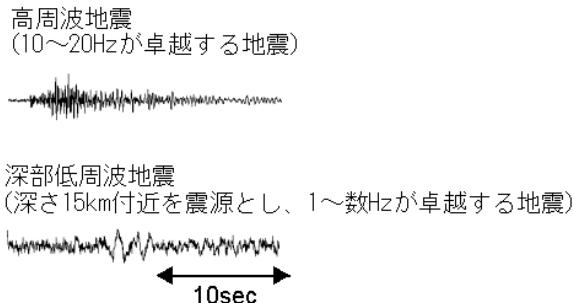


図3 富士山 発生している地震の特徴と波形例

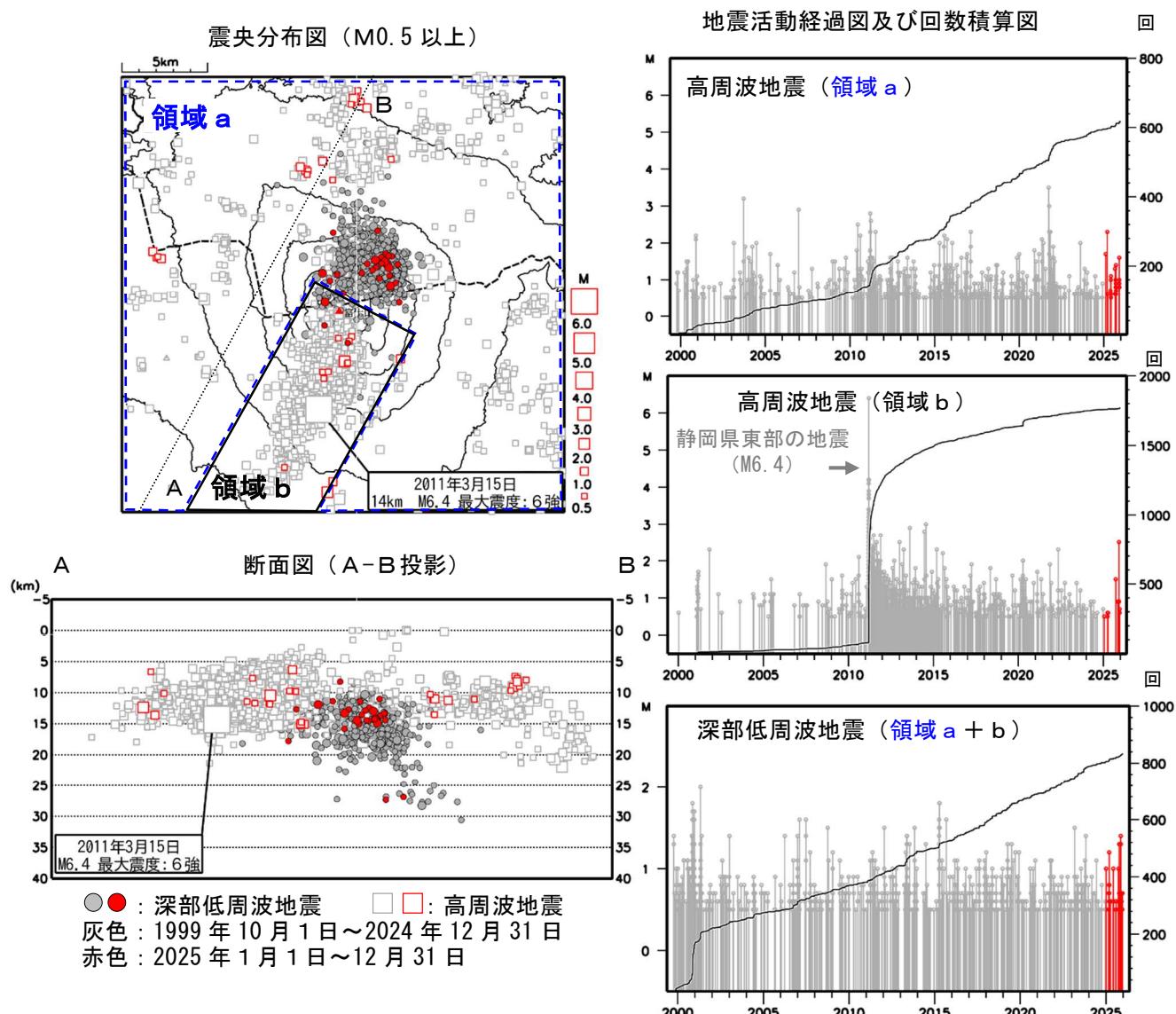


図4 富士山 広域地震観測網による山体及び周辺の地震活動(1999年10月1日～2025年12月31日)

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

M (マグニチュード) は地震の規模を表します。資料中のマグニチュードは一部暫定値も含まれており、後日変更することがあります。

- ・地震活動は低調に経過しました。
- ・2011年3月15日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したM6.4の地震以降、領域bでは地震活動が活発な状況となっていましたが、2016年以降は、発生前の状況には戻っていないものの、低調に経過しています。
- ・深さ15km付近を震源とする深部低周波地震は少ない状態で経過しました。

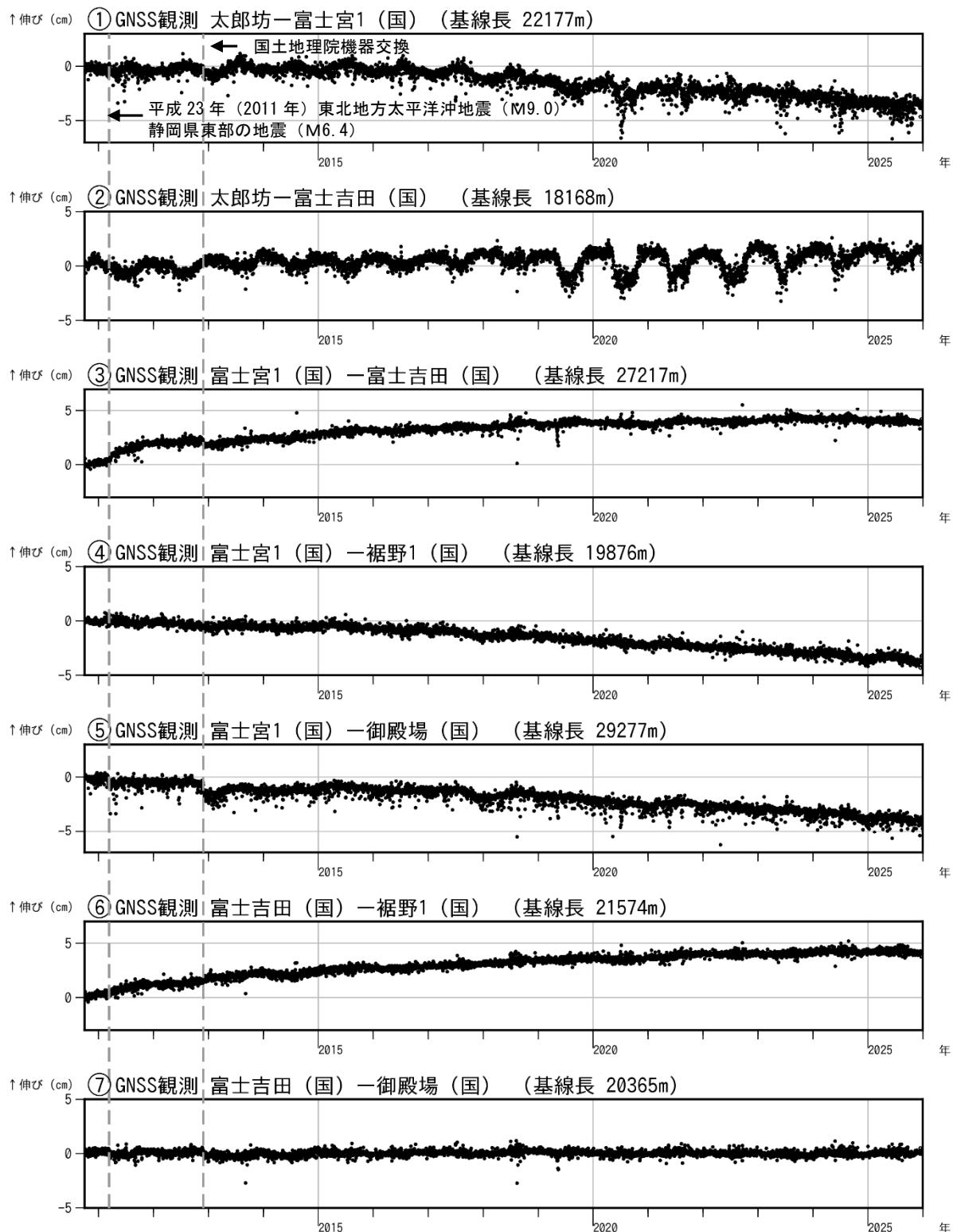
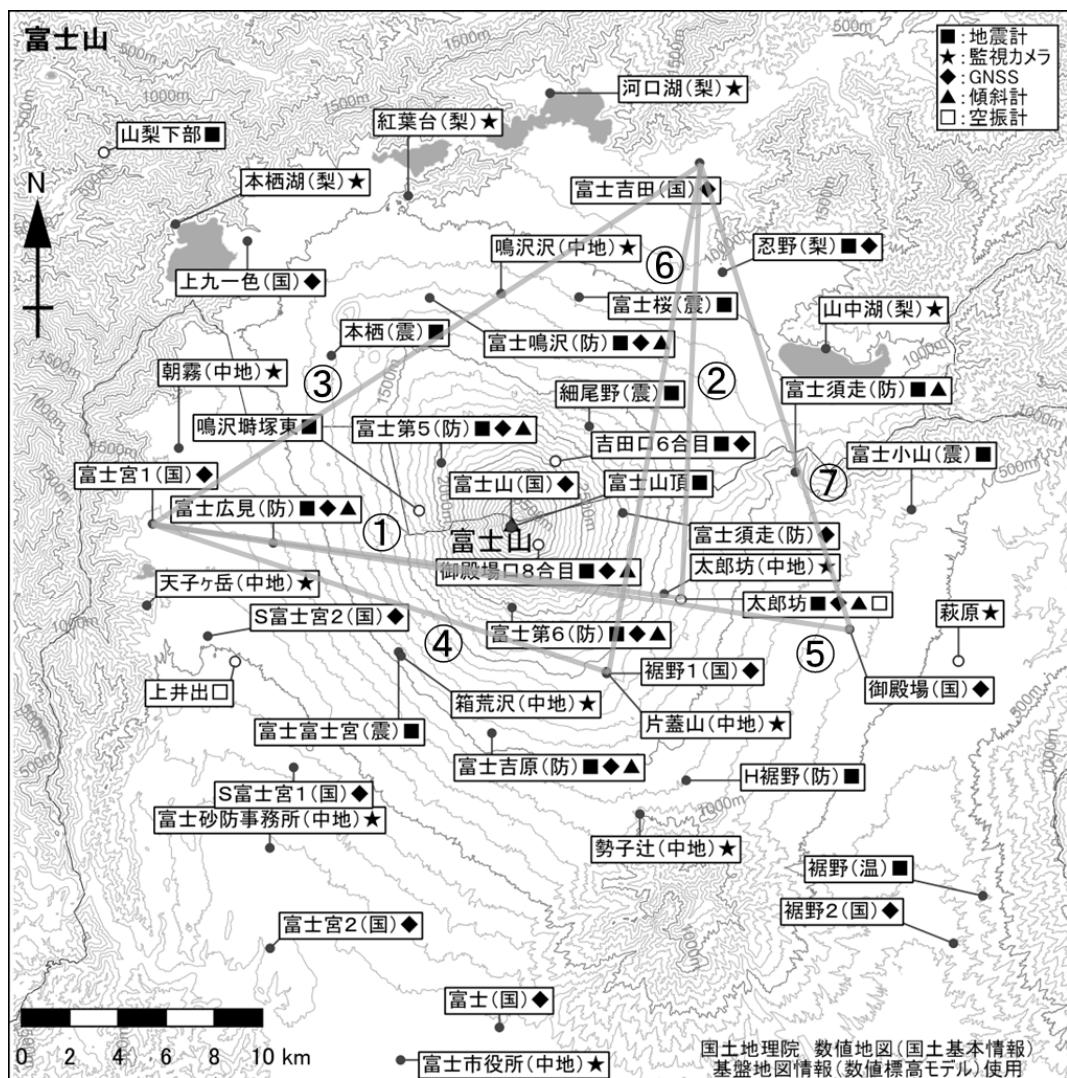


図5 富士山 GNSS 連続観測による基線長変化（2010年10月1日～2025年12月31日）
(国)は国土地理院の観測点を示します。

①～⑦は図6のGNSS基線①～⑦に対応しています。

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」及び2011年3月15日に発生した静岡県東部の地震（M6.4）によるステップ状の変化を補正しています。

・火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。



小さな白丸(○)は気象庁、小さな黒丸(●)は気象庁以外の期間の観測点位置を示しています。
(国):国土地理院、(防):防災科学技術研究所、(震):東京大学地震研究所、
(中地):中部地方整備局、(梨):山梨県

図6 富士山 観測点配置図
GNSS 基線①～⑦は図5の①～⑦に対応しています。

表1 富士山 気象庁の観測点一覧

測器種類	地点名	位置			設置高 (m)	観測開始日	備考
		緯度	経度	標高(m)			
地震計	富士山頂	35° 21.64'	138° 43.64'	3772	0	1987. 8.25	
	御殿場口8合目	35° 21.24'	138° 44.38'	3235	-1	2002.10. 9	
	吉田口6合目	35° 23.11'	138° 44.85'	2403	-1	2013.11. 1	
	鳴沢崎塚東	35° 22.01'	138° 41.11'	1761	-1	2013.11.27	
	太郎坊	35° 19.99'	138° 48.28'	1284	-61	2010. 8. 9	
	山梨下部	35° 30.05'	138° 32.47'	775	0	1994. 7. 5	
傾斜計	太郎坊	35° 19.99'	138° 48.28'	1284	-61	2011.4.1	
	御殿場口8合目	35° 21.24'	138° 44.38'	3235	-15	2016.12.1	
空振計	上井出	35° 18.61'	138° 36.06'	485	1	2009. 8. 4	
	太郎坊	35° 19.99'	138° 48.28'	1284	1	2010. 8. 9	
GNSS	太郎坊	35° 19.99'	138° 48.28'	1284	3	2010.10.1	
	御殿場口8合目	35° 21.24'	138° 44.38'	3235	3	-	
	吉田口6合目	35° 23.11'	138° 44.85'	2403	4	-	
監視カメラ	萩原	35° 18.58'	138° 55.88'	480	-	2010. 4. 1	